

霧島市工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

霧島市工業用水道事業は、当時テクノポリス構想の一環として造成された上野原テクノパークへの工業用水道の供給を目的として昭和62年に事業届をおこなっている。

当時、鹿児島県開発公社が整備した給水施設一式を平成元年から随時国分市が寄付採納を受け、国分市工業用水道事業としての供用を開始し、平成17年11月の市町村合併を経て、現在に至っている。

○事業の経緯

本事業は前述した通り、国分上野原地区に造成された工業団地（面積629,782.18m²）に工業用水道を供給するために創設された。当初給水能力は先端技術に対応できる水量として9,000m³/日を予定し、第1次稼動として2,500m³/日にて事業が開始された。

その後、バブルの崩壊や企業の生産拠点の海外へのシフトがすすんだ結果、立地する企業も伸び悩み、使用水量も日量200m³程度にとどまった。

また、本工業団地の敷地から約9500年前の縄文時代の住居跡が大量に発掘され、その敷地の約半分程度が遺跡公園として整備されることが決定されたため、平成13年に給水能力を当初計画の9,000m³/日から2,500m³/日に縮小している。

○ユーザーの概要

(平成20年4月1日現在)

業種	件数	基本水量 (m ³ /日)
金属製品製造	6	60
機械器具製造	2	20
工作機械製造	4	60
情報通信機械器具製造	2	20
研究開発機関	1	10
公園	1	10
教育学習支援施設	1	30
合計	17	210

○工業用水道施設の概要

本事業は水源を給水区域から約2km離れた山中にボーリングを行い、地下水を取水している。

加圧ポンプで加圧された原水は導水管を経て、工業団地内にある管理場内の配水池に貯留され、各事業所に配水されている。水質は良好であり浄水過程は経ていない。

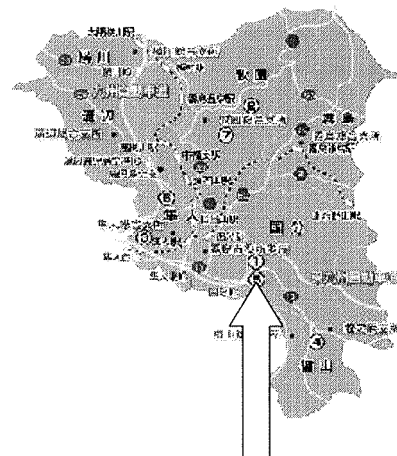
配水池は高架水槽となっており、ユーザーへの配水は自然流下でおこなっている。

導水管はDCIPφ150～φ200を用い、配水管はDCIPまたはVPφ50～φ150、総延長10,855mである。

○事業の特徴

本事業は良好な水質と余裕ある水量により、より多くの需要に対応できる事業ではあるが、当初予定と比較して立地企業数ははるかに少なく、その企業でも使用水量が少ない業種の企業が多いため、収益性が悪く、一般会計の補助金をあおいでいる状態である。

今後、経営の効率化を進めるとともに、より多くの企業の立地を期待しているところである。



国分上野原テクノパーク

